ビーチクリーンアップ モニタリング調査 2024

日　　時：令和 6 年（2024 年）11 月 17 日（日）9:00～14:30
場　　所：高松市庵治町（調査場所①：鎌野海岸、調査場所②：高尻海岸）
参加者数：24 名

11 月 17 日（日曜日）高松市庵治町の海岸 2 か所でビーチクリーンアップモニタリング調査を開催し、大学生、企業、家族連れなど 24 名の方に参加をいただきました。

2 か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

海ごみリーダー養成講座の修了生がキャプテンやキャプテンのサポートを務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、調査を行いながらごみの回収をしました。

1 か所目の調査場所（鎌野海岸）は、海ごみリーダーとしての活動経験者がキャプテンを務め、修了生の手本となるように各手法の説明や調査の意義について話をしました。

回収・調査をしてみると、個数が多かった品目のトップ 3 は表 1 に示すとおりになります。破片が多い傾向にあるものの、調査品目では、カキ養殖用まめ管（1 番目に多い 474 個）、飲料用ボトルキャップ（プラスチック）（4 番目に多い 76 個）、ふた（プラスチック）（5 番目に多い 57 個）などが多くありました。

2 か所目の高尻海岸では、今年度の修了生がキャプテンを務めて調査を行いました。多く回収されたごみの品目のトップ 3 は、表 1 に示すとおりになります。
1 か所目の海岸と比べると、大きなごみは少なく破片などの小さなごみが取り残されているように感じられました。

前の週に海岸クリーンアップが行われており、大きなごみは少なく、小さなごみや破片などのごみが残っていると考えられます。

調査の後には、海ごみ問題について正しく知ってもらうための「海ごみミニ講座」が実施され、海ごみによる生物への影響、瀬戸内海の海ごみ事情などについて話がありました。

参加者からは、「生活に関係するごみが多く、ごみは減らしたい。また、活動に参加したい。」「同じ海岸でも拾う場所によってごみの量が違っていた。」「このようなごみ拾いをもっと多くの人に知って欲しい。」などの意見がありました。

講座で感じたことを通して、今後、身近な場所、出来ることから海ごみを減らす取り組みを始めるきっかけになればと思います。

表 1　各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目）ｔ＝20 分間	回収量
調査① 鎌野海岸	①　カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ）474 個 ②　硬質プラスチック破片　202 個 ③　プラスチックシートや袋の破片　104 個	7 袋（30L ごみ袋）
調査② 高尻海岸	①　カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ）363 個 ②　発泡スチロール破片　202 個 ③　硬質プラスチック破片　146 個	7 袋（30L ごみ袋）

【International Coastal Cleanup(ICC)】
世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】
海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域にお

けるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：鎌野海岸

海岸クリーンアップの様子

ICC 調査の様子

調べた結果と気づいたことを発表

集合写真

調査場所②：高尻海岸

海ごみリーダー養成講座受講生による説明

海岸クリーンアップの様子

調べた結果と気づいたことを発表

海ごみのミニ講座